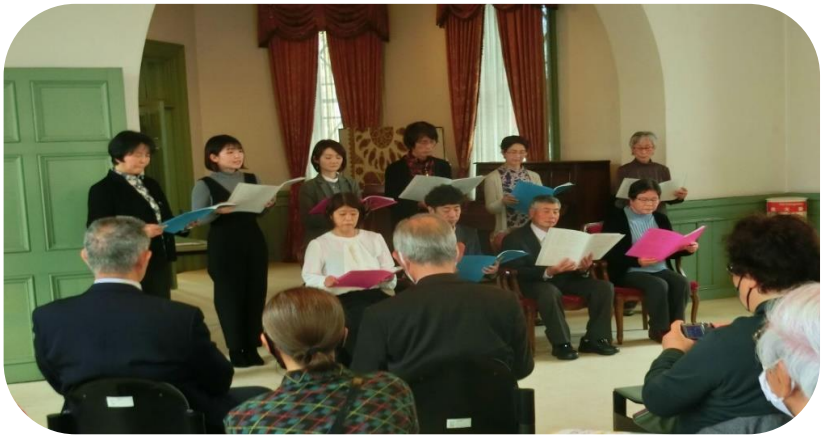
朗読の会「おり鶴の声」
結成後、初の朗読会を開催しました。



令和 5 年 4 月 15 日、福岡市 国指定文化財赤煉瓦文化館で「おり鶴の声」の朗読会を開催しました。

この「おり鶴の声」は、福岡市原爆被害者の会（通称：折鶴会）の「被爆の実相を語り継ぐ活動の一環として、今年度から活動を開始しました。

現在のメンバーは 10 人で、うち、被爆者は 2 歳で被爆した 1 人のみで、あとは皆、被爆体験のない人たちです。年齢も 30 代～70 代までと幅広く、戦争さえ知らない者がほとんどです。

『被爆者ではなくても、被爆の実相を伝承するために、何か出来ることはないだろうか』という同じ思いを持って集まった仲間です。

この日は、広島で被爆した森律子さんと、長崎で被爆した北村正人さんの体験記の朗読を、会員 20 名の前でお披露目しました。

被爆者の方々は、皆高齢になり、いろんな場で被爆証言をする事が難しくなってきています。そこで「おり鶴の声」の仲間が、被爆者の方の被爆体験をもとにしたシナリオで被爆者の方の「声」になろうと思っているのです。

今回の朗読会をスタートとして、8 月に予定されている原爆展での発表を目標にし、更に、機会があるごとに朗読を重ねながら、聞く人の心に響く朗読になるよう努力していきます。

朗読のあと、日頃朗読について何かとご指導いただいた 俳優・演出家の中西和久先生に講話をして頂きました。

朗読については、呼吸の合った真剣さがにじみ出て、短期間の練習の効果が発揮され好感を持てたこと、そして講演では、被爆者が被爆の実相を語りたがらない「かくす」背景や心情に触れ、人権問題として社会全体が考えなくてはならないことを強調されました。

戦争や核兵器は一瞬に「命」や「人権」を奪い去ります。「命」や「権利」を 1 人ひとりが真剣に考え、行動していけるよう、私たちは「声」をあげ続けていきます。